

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第168号(2021. 3. 1)
事務局 川西地区自主防災会

東かがわ市 上村市長さんにお話を伺いました

東かがわ市：上村市長・かがわ自主防連絡協議会 岩崎会長対談

令和3年1月25日

Q 先ず、お若くして市長さんになられておりますが、市長さんになられる人生上の動機とか、市長になられてからの抱負などについてお聞きかせください。

A はい。ありがとうございます。私、市長になる前に三つ仕事をしてきました。東かがわ市に生まれ育ち、中学校を出てから陸上自衛隊に入り、その後大学に入学・卒業後、広告代理店勤務を経て、国会議員秘書をしてきました。その中で、ずっと心に一本持っていたのは「人の役に立ちたい」という想いです。私が自衛隊に入ったきっかけは、中学2年生の時に起こった阪神大震災でした。高速道路の倒壊や火災の発生など、状況はテレビなどで報道されていましたが、神戸や大阪に住んでいた親戚に連絡しても、全く連絡が付きませんでした。そこで、父親と二人で被災地に入り、お見舞いに行きましたが、現場で感じたことは「無力感」。被災者の方々を前にして14歳の自分には何もできないと、呆然とするしかない中で目の当たりにしたのが、自衛隊員の災害派遣活動でした。無力感に襲われていた私は、その自衛隊員の姿に心を打たれ、“人の役に立つ、こんな仕事をしたい”という決心が強烈に芽生え、それで中学校を卒業した後に陸上自衛隊に入りました。

16歳で地元を離れ、35歳の時にUターンする形で香川県に国会議員秘書として戻ってきましたが、20年地元を離れていたこともあり、地元で働けることはとても楽しく、充実していました。しかし、地元の友人たち、地域の方々と話をしていく中で、「少子高齢化」や「人口減少」「地場産業の低迷」等の問題が顕著になっており、「街の空気が、以前より重くなった」と感じました。そこで、「東かがわのために、この空気を変えたい。」と思ったのがきっかけです。そして、「自衛隊や広告代理店、国会議員秘書の仕事で得てきた、これまでの経験を生かせる仕事は何だろうか」と考えた中で、“政治家、その中でも市長しかない。”と思い、東かがわ市長を志す事になりました。

市長に就任してからは、「いかに若い世代を引っ張っていけるか」という事を考えています。本市の高齢化率は約43%で、県下でも高い方です。高齢者へのサー



ビスについては、市役所から直接のサービスの他、社会福祉協議会や老人福祉施設などの民間事業者さんをお願いしている部分も有りますが、将来の人口の減り方や人口構成の変化を考えたとき、現状のサービスを将来的に維持できるのか、という課題があります。そのためには、若い世代から評価してもらえるまちづくりをしていかなければならない、と考えています。若い世代の皆さんが、この町で「ちょっと面白い事をやってみようか」とか、「新しい商品やサービスを考えて新しい事業を起こしてみよう」と思う環境を、どれだけ創ることができるか。この点を最も意識しています。そして市長就任以降、そういう動きがまちに生まれ、徐々に実を結びつつあると感じています。

Q それでは防災の話に移りたいと思います。「訓練」とか「研修」とか「備蓄」とかを含めた行事について伺います。

A 訓練に関して申しますと、今年度はコロナ禍で実施できなかったのですが、9月の防災の日には避難訓練を各自治会単位で行っています。終了後にそれぞれの自治会から実施状況報告を受けつつ、消防団や地元の方々に集まって頂き、防災研修会も実施しています。

また、6月の土砂災害防止月間中には、地域の方々がまち歩きをしながら、「危険なところはどこか」、「その危険を回避するにはどうするか」などを話し合う「街中ウォッチング」を通して、防災の意識啓発もして頂いています。

備蓄について申しますと、南海トラフに対する備えが一番重要だと感じており、県や国から推計データが出てきておりますので、それに見合った数の備蓄をしています。また備蓄とは別の観点になりますが、農業者団体の皆さまや食品メーカーさんをはじめ、様々な組織・団体と防災協定を結んでおり、災害が起こった「いざという時」に、市から要請をして、食料や、資材、物資などの提供について、ご協力を頂くことができる体制を取っています。

Q 先ほどの「街中ウォッチング」については、ずっと住んでいてよく知っている心算ですが、知らない処が沢山あります。やはり住民自らが自分たちの周囲がどういう環境になっているのか、改めて見てもらうという研修は非常にいいと思っております。

A おっしゃる通りで、住んでいてもなかなか気付かない事は、本当にたくさん有ると思っています。普段の散歩や通学・通勤で通るだけでなく、改めて災害が起こった時の視点で見て頂き、「ここはいつも通っているけど、よくよく考えたら少し危険だな」という気づきを得て、防災の視点での議論やディスカッションを行い、防災意識を高めることができる。このような具体的な行動を通して、防災対策・対応に繋げていくという事は、本当に重要であると考えています。

Q もう6年位前になりますが、北九州豪雨があった時、大分の日田市で山間部の集落で多くの犠牲者が出ましたが、その自治会長の研修に講師で招かれて行きました。そこで、「5キロも有る遠方の指定避難所の小学校への避難に拘ため、途中濁流に押し流されて大勢が亡くなった自治会があった」一方、「別の自治会長の所では、近くに

ある高台を目掛けて引っ張って行って、15分程度で誰も犠牲者を出さずに避難が出来た」というお話がありました。現地の状況をウォッチングしながら市民の応用動作養う、という視点で「防災まち歩き」を続けて頂けたらよいと思います。

A 一時避難所と広域避難場所の違いというのがあると思います。当市の面積は約150平方キロありますが、地域によっても事情が異なり、災害が起こった時に、「自分の地域ですべてどこに避難するのか」「一時避難所、広域避難場所はどこなのか」これらの意識付けを、各地域やコミュニティの中で考えて頂くことは、非常に重要です。令和3年度には、避難場所を全部記載した自治会単位の防災マップの見直しをする予定です。自治会の皆さまには、そのマップをご覧頂き、普段の生活の中で「うちの自治会はずっとここに逃げないといけない」という、意識付けをして頂きたいと思います。

Q こちらで以前、備蓄で農業団体と玄米を保管をしてもらっておりましたが、あれは継続して現在もやられているのでしょうか。

A はい、本市は農業経営者協議会様と、「災害時には約5,300kgのお米を提供して頂く」という項目を含んだ協定を締結しており、現在もその協定は続いています。この協定により、市内全体の想定避難者数の約3日分を確保できる計算です。

Q 最初の3日分を確保しておれば、また農家の皆さんから足らなくなった場合追加でプラス・アルファしてくれます。それで、九州の熊本の地震の時、応援に行って一番勉強になったのは、非常食の備蓄がなくて、全国から届いた非常食ばかり食べ続けていたら、1週間位経つと酷く体調を崩す者が増えてきて、結果的に熊本は、多くの関連死で亡くなる人が出ました。あとで自衛隊員を使って検証すると、若い自衛隊員でも3日位食べたら入院しないといけない様になって、“やっぱり非常食はあくまでも非常食(非情食)ですよ”と消防庁の人が言っておりました。ですから今からはお米を持っているという事は非常に強い事だと言えます。

A 厳しい環境の中での「食」の存在価値・意義は極めて大きいです。自衛隊時代、厳しい訓練を一日中続けて行い、疲れきっている極限状態の中での食事は、「癒し時間」というか「心の平穏を保つ」ものでした。身体的にはもちろん、食事がもたらす「精神的回復力」もとても大切でした。そのため、災害を受けて極限状態にある中で「食」の存在は非常に大きい。だからこそ、自衛隊やボランティアの皆さまが被災地で支援する「炊き出し」は本当にありがたいものだと感じます。

Q まあ5,300kgのお米をベースにして、それで「ご飯にお漬物と汁」、このセットがあれば、一番元気が出ます。避難所で生活している人には、「ご飯と漬物とみそ汁」このパターンに早く返してあげないといけないと思います。

A やはり日本人ですからね。パン食もありますが、多くの日本人の主食は「ご飯」ですから、身体的にも精神的にも「お米」が持つ意義というものは凄く大きいのかなと感じます。

Q 次に今は、要配慮者対策について、非常に話題にもなっておりますけども。
(これについてお聞かせください)

A 高齢化に伴い、体が不自由な方や、障がいのある方をはじめとした「要支援者」の方々は増加傾向にあります。「要支援者」の皆さまが、「自治会」や「コミュニティ」の中で、どこ住んでいて、どう支援していけば良いのか、この点にも力を入れていきます。令和2年度に「要支援者の方々が一番近い避難所に安全に行くルート」を整理できるよう、システムを更新しました。「要支援者」の皆さまも適切に避難ができるよう、民生委員や自治会長さんと情報共有できる場を年1回設けています。

Q 昨今は色々な福祉施設が、大水害の時に、大勢の犠牲者が出ておりますが、福祉施設との対応についても、これから考えていかなければならないと思うのですが。

A 仰るとおりです。各福祉施設の中での避難訓練等々についても、それぞれの施設の中でやって頂いております。その一方で、災害時には福祉施設自体に福祉避難所の役割をお願いしなければならない事もありますので、福祉担当や防災担当の部所も入って、各施設の連携を図っております。

Q 次にその避難所の関係ですが、その設営訓練とかそれから避難所の生活向上施策などを含めて、少しお聞かせください。



A 市民の皆さまが身を寄せる所なので、生活の居心地というか、衛生面や食事面を含め、いかに日常生活に近い形で避難所を運営できるか、というのが非常に大きな課題です。また、大規模災害時には職員自身も被災しているので、発災後すぐに職員が避難所に張り付けるかということ、対応しきれない場所が必ず出てきます。そのため、各地域の皆さんにも避難所の開設・運営に対して

主体性を持って頂くことも重要です。そこで、当市では「避難所の開設運営マニュアル」を作成して頂けるよう、準備を進めています。避難訓練はじめ、「やってみることで、課題が見えてくる」ことはあるので、もちろん行政も入りますが、各地域の避難所で「立ち上げから運営まで皆さんと一緒に考えましょう」という姿勢を大切にしています。

また、「コロナ禍の避難所運営」について。令和2年の2月頃から、日本でも感染症の影響が出始めましたが、梅雨時期を迎える6月までに「避難所の新型コロナウイルス感染症対策」を検討するように指示しました。そこで「体温計測して、発熱や体調異常のある人を、他の方々とどう分離するのか」「ソーシャルディスタンスを取っても、広域避難場所に避難者を収容できるのか」など、再度検討をして、5月末位に

は整理ができました。

Q 何か色々な資料を読んで見ますと、「一番日本の避難生活が惨め」で「ヨーロッパの方へ行くとホテル並みにきちりと整備されている」といわれています。今年度の夏に香川県の総合防災訓練があった時に、「まあ、10年後の避難所生活はこうなるのかな」と、各部屋に小型のエアコンを付けて、ベッドや一寸したお話ができる様にテーブルを置いて、知事さんや県警本部長さんが実地で巡回して来た時に、そこに入ってもらって、一寸お茶を飲んで15分位くつろいでもらったら“ああ、これが十年後の避難所のモデルか”と知事さんが聞いてきましたので、“まあそのつもりでやっています”と返事した事がありました。避難所に、大型発電機を持っているので何でも出来るのですけど。我々健常者は好いのですが、一寸体力の弱っている人を避難所にお迎えした時には、それなりの工夫をしてあげないと、そこで体力を落としてしまう場合もあると思いますね。

A 避難所生活は気もめいって、普段できていたような事ができなくなったりしますので、避難所内の「健康管理」や、先ほどの「栄養管理・衛生管理」などは、やはり重要です。「衛生管理」に関しては、上下水道の使用が可能な場合は避難所のトイレが使用できますが、応急で建てられるトイレにおいては、手洗いなどの衛生処理設備にも気を使います。快適といっても、さすがに自宅並みにはいきませんが、その辺りの配慮も通して、心身の健康をどれだけ崩さないようにできるか、それが大きいと思います。また、避難所の中の雰囲気にもよりますが、「みんなで頑張ろう」という前向きな空気があったら「自分も頑張れる」と思います。しかし、避難所生活が長期化してしまうと、「いつになったら出られるのだろう」と、気持ちが沈み、調子を悪くする方も出てくると思います。さらに、コロナ禍では周りの人と「話をするな」「接するな」というのが前提としてありますので、そこに関してもフォローが必要です。幸いにして、当市では、令和2年度中に避難所開設をする場面はありませんでしたが、西讃地区では雨が強かった時期もありましたので、コロナ禍の避難所開設・運営において、気を遣うところは結構あったのではないかと思います。

Q 私どもの所で去年7月に地域の防災訓練をした時に、小学校の体育館で避難体験をやってもらったのですが、体育館の舞台に、工場用の大型の扇風機を5台セットして使用しましたが、結構空気の流れが出来ました。これは暫くこの方法で行ったら好いのではないかと思います。エアコンは未だ夢みたいなところがありますが、扇風機だと電力も大して要りませんので、それで工場用の大型扇風機を使えば風も流れて涼しくなります。また、最近では静かなのを売っております。

A 防災備品において、「如何に普段使いもできるか」という議論は結構あります。おっしゃる通り、学校の部活動等、体育館の日常使いを考慮しても、体育館にエアコンを付けることは、予算面・工期面からも、かなりの議論がいます。本市では冷風機を導入して、夏期中の子どもたちの活動だけでなく、大人も含めた社会スポーツ活動でも使いつつ、夏の災害で避難場になった時にも冷風設備が活躍できるというように、普段使いと災害時利用で両立させています。これからの備品調達において、

一層このような考えが必要になると思います。

Q それからトイレの問題ですね。東北に応援に行った時も、女性ボランティアの皆さんが不便を感じていました。それで夜が来て活動が終わったら何時も車に乗せて1時間以上走って内陸部にあるローソンの「トイレ環境の良い所」に連れて行きました。また、腰かけタイプに慣れてしまっている人への対応ですね。体育館のトイレも腰掛タイプに段々変えて行かなければならないと思います。

A お手洗いの洋式化というのは、特に体が不自由な方々は「しゃがむ」という行為自体が辛かったりしますので、避難所に限らず、普段使いする公共施設のお手洗いも洋式化を進めているところです。学校現場では、「和式のお手洗いを使ったことがない」、「学校に来て初めて見た」とかいう子もいたりするので、時代の要請だと感じています。

Q それじゃ、時間も相当経ちましたので、個人的なことで、趣味とか、好きな言葉とか家族の状況などについて一寸お話いただければと思います。

A 趣味で申しますと、自衛隊に入った時に「ラグビー」を始めました。また、大学では、体育会でやれるほどのプレイヤーでなかったのですが、サークルでやっていたし、東京のサラリーマン時代には草ラグビーチームに所属していました。それもあって、2019年のワールドカップで日本代表が勝ち上がっていったことは、本当に感動しました。当時のワールドカップを引っ張っていった方々が、今でもインターネットやテレビのニュース、CM等に沢山出られています。日本が本戦で南アフリカに負けた時ですが、あの時、香川県で唯一、NHK高松放送局さんのロビーで、パブリックビューイングが行われました。家族で行ったのですが、そこに友人も来ていてかなり盛り上がりました。また、高松で行われた「ラグビートークイベント」にも呼んで頂き、香川県出身で唯一プロラグビー選手になった三木町出身の方と、ラグビー好き社長さんとの三人で「如何にラグビーワールドカップが楽しいスポーツ大会か」を、参加者の皆さんと共に熱く語り合いました。本当に趣味だけみたいなイベントでしたが、このような企画にも呼んで頂けたことは、ありがたいことでした。今はもうプレーできませんが、お仕事で繋がった方の中で50歳代になっても、プレーしている人もいますので、すごいなと思っています。ただ「今後の日本のラグビー界に注目！」と思っていた矢先に、国内最上位リーグであるトップリーグが、コロナ禍で昨年は中断、今年は開幕延期となり、コロナ禍におけるスポーツの難しさを感じています。

小学校から中学校までは、野球をしていました。中学校時代の監督が「私のモットーとなる言葉」を教えてくれたのですが、「恥ずかしがるのが、一番恥ずかしい事だ」という言葉です。私含め誰もが人間ですから、いつどこにおいても、恥ずかしがってしまうことは、よくあると思います。例えば「自分がやらなければならないこと」「自分がやりたいこと」に対して「これ言って恥かいたら怖いな」、「これやって失敗したらどうしよう」と、なかなか一歩が踏み出せない事があると思うのです。ただ、“そうやって恥ずかしがっている姿こそ、一番恥ずかしい姿だぞ”と、教えてくれました。今の自分への自省も込めて、この言葉を自分のモットーにしています。ただ、大人に

なってからその先生に逢うタイミングがあって、「私、人生のモットーとしている言葉があって、先生に言われた言葉です。」と言いましたら、「そんなこと言うたかのう」と言われてしまいました（笑）。

Q ご家族は奥様とあとお子さまは。

A 家族は、妻と男の子二人で、私の両親もいます。私自身も弟と二人兄弟で育ちました。自分の子どもは、良く言うと腕白です。なので、自分の子どもが育てば育つほどに、“男兄弟を育てたこと、両親は大変だっただろうな。よくここまで育ててくれたな。”と、両親に感謝を抱いています。子どもたちが赤ちゃんだった時代も大変でしたし、幼稚園、小学校時代もまた大変です。今は小4と年中ですが、それが中学校に行き、高校に行き、大学に行き、社会人になる時、その時期それぞれの親の悩みがあると思います。小さい頃は手がかり、小学校になると友達関係や、勉強やスポーツの得意不得意など、そこでの悩みも聞かないといけません。さらに、思春期に入ってくると、悩んでいる事すら話してくれなくなるので、親としてその子の思いや悩みにどう向き合うのか。加えて、今の時代はインターネットやゲームと、どう付き合っていくかも考える必要があります。

また、私自身が中学校出てから自衛隊に行くと言った当時、家族、親戚の中で様々な意見が出たのですが、自分の子を見ながら「中学校卒業して自衛隊に入る」と言ったら、自分はどう思うか考えたりします。「おいしいぞ、行ってこい！」と言うのか、厳しさ、しんどさを知っているのでは止めるのかな、とか。これはその場になってみないとわかりませんが、本人がどれくらい気持ちの強さで言っているかによって変わってくると思います。繰り返しになりますが、子どもの所作に対処する時、「自分の親は大変であっただろうな」と、子どもを育てるようになって、ひしひしと感じるようになりました。そうして親に対する感謝の念が、年を追うごとに深まり大きくなって、きっとこれからも続いて行くのでしょね。



今日は、色々長時間にわたって、貴重なお話を伺わせて頂き、ありがとうございました。

事務局だより

令和3年 3月

今月の事務局だよりは、川西コミュニティが行なっている「森の再生事業」の最近の取組みについて紹介いたします。

東日本大地震から丸10年

1,000年に1度発生と言われる東日本大地震から丸10年が経ちました。2011年3月11日（金）、私達（川西地区自主防災会）のメンバーは翌日からの「ふれあいまつり」の準備で15人ばかりがコミュニティセンターに集まり、それぞれが役割分担によって、作業を進めておりました。15:00ごろだったと思いますが丸亀市危機管理課職員から電話で、テレビのニュースを見て下さい、大変な事になっています、との事。テレビを見て、声がでない位、衝撃の映像が流れていました。仙台平野を押し進む津波の映像でした。



発生から20日後、石巻市へ、50日後陸前高田市へ避難所での炊き出し活動、更に同年8月にガレキの撤去活動に陸前高田市へ出向きました。初めて被災地を目の当たりにしたとき、涙が止まらなかった事、今でも忘れることができません。



その日から10年、国民全体が防災に対する危機意識がうすらいでいっているのが残念であります。

「継続は力」なりという言葉どおり、常に備えておく、常に訓練をしておく、私達のふるさと香川は、南海トラフ地震がカウントダウン状態に入っているとされており、あらためて「身の回り」「地域まわり」をしっかりと防災の視点で点検と補強しておくことが大切です。



コロナ対策を万全に夜間避難訓練

事務局を担当しています、川西地区 コロナに負けるなのもと、感染対策をしっかりと行なって以下の訓練を行ないました。

◎夜間避難訓練の実施 令和3年1月30日（土）480名参加

（対前年度比マイナス80名）

◎地元城辰小学校 防災研修 令和3年2月26日（金）5年生児童70名参加

更に東日本大震災丸10年となる令和3年3月11日（木）丸亀市全コミュニティ参加の訓練も実施します。災害の少ない香川県ですが、地球温暖化による「海水温」の上昇による記録的大雨洪水の発生と南海地震対策に真正面から取り組んでいきましょう。



夜間避難訓練



城辰小学校防災訓練

編集後記

3月の防災減災の輪は、東かがわ市上村市長と岩崎会長の対談を掲載させていただきました。ありがとうございました。